ICTって、簡単。



時代の流れとは言うものの、完全にデジタル社会となり、得て不得手に関わらず、ICTは生活の身近なものとして、生活のツールとして、更にはコミュニケーション・ツールとして必要不可欠なものとなっている。

しかし、一般的に大きな勘違いにより、ICTとは専門家のみが成し得る技として、高嶺の花と思い込んでいる人も少なくはない。実は、「ICTって、簡単。」というのが筆者の口癖である。加えて、「ICTって、生活を楽しく豊かにする宝箱。」と言っても過言ではない。

何故、簡単なのか!?

通常パソコン教室では、「ワープロ」、「表集計」、「プレゼン テーション」、「静止画動画の編集」など、別々の科目にて学習し ている。よって、社会人も学生も、時間的にも予算的にも余裕があ

る訳でもなく、途中で諦める人が多く出るのは、仕方のないことである。

先ず、社会人であれば、自分の業務を考えてみればすぐ分かる。パソコンが世に生まれて、どのような業務にどのようなアプリを使用してきたかと言えば、ここ数十年間、全く変わらずの状態であり、ワープロ、表集計とグラフ、プレゼンが主役となり、事務的なものを処理しているに過ぎない。

では、パソコンで取り扱うデータを覗き込むと、テキスト(フォント)、表、グラフ、写真、動画、ミュージック、音声、効果音などと限りがあり、僅かなものである事に気付くはずだ。そこに、メタバース時代となれば、アバターと仮想現実空間たるものが加わるだけの話。

大抵のパソコン教室では、ハードウェア(Hardware)の取扱方法、ソフトウェア(Software / Apps)の活用法を学び、プリンタで出力して諸手を挙げて喜んでいる。そこには、ハード及びソフトの連動という、楽しさ満載の「コンビネーション(連動)」が欠落しているものが多い。

実は、ソフトウェアそれぞれの活用法を、別々に教えることで、収益を得る事が可能となるので、そうするのだろうと推測する次第。ただ、ICT専門家として仕事をするならば、とことんハード及びソフトの研究は欠かせないが、一般的な方々には不要なものが沢山ある。

よって、上述のように限られた各種データのコンビネーションを理解すれば、Mac(Apple社製)であれば、ショートカットキー(例えば $\Re C+\Re V$)で、目を瞑っていてもコピペ完了。何も心配する事なく、無駄な動きも必要なく、さっさと仕事が捌けることになる。

筆者が力説するのは、ハード及びソフトにおける「コンビネーション」の手法をしっかりと理解して、ブラインドタッチの練習をしっかりとやっていれば、どのソフトウェアを使おうが、どのSNSのアカウントを登録しようが、全く関係なく、全てが円滑に前に前に進むことになる。

ICTを楽しく有意義に活用する為には、入口を複雑にしているからこそ、一般的な方々は戸惑い、そして立ち止まってしまい、挙句の果てには諦める。その悪循環が苦手意識の解消に繋がらない訳だ。極論であるが、自転車に乗れるのならば、その程度でICTが良き友となるに違いない。

皆さんの社内で周囲を見回していただければ分かるように、結構、ICTが強そうに鼻高々としている人物も沢山いるが、ほとんどの担当者はICT初級者程度のスタッフである。これまた極論であるが、筆者が力説するハード及びソフトにおける「コンビネーション」さえ出来れば、大した差はなくなってしまう。

ICT世界において、日本語の最大の弱点はローマ字入力または平仮名入力を行い、スペースキーを叩き、漢字変換をしなければならない。英語圏の方々とは、そこで格差がある。よって、基本の基本であるブラインドタッチさえ習得しておけば、先々は軽快な仕事環境となることをお約束する次第。



現在、ZOOM(ビデオ会議)を通して、あちこちでICT特訓講座のレクチャーをしているところだが、 1ヶ月で基本的なものを叩き込み、それから数ヶ月で本人が別人28号(例えが古い)のように進化した姿 を見れるように、筆者流のICT魔法のレクチャーに拍車が掛かることになる。

因みに、筆者のMac歴は38年 (since 1984) だが、パソコン歴 (SHARP MZ80、MZ 5500、MZ 6500) はそれ以上になっている。

- ▼お問い合わせは、以下の、Facebookメッセンジャーにてお気軽に! https://www.facebook.com/chikaonishida.dandl
- ▼西田親生流「魔法のICT理論」 ※誰だって、マジシャンになれる!

